

■発行:一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail:pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:https://

www.kumamoto-if.or.jp/



KUMAMOTO
INTERNATIONAL
FOUNDATION

令和2年度多文化共生月間・多文化共生セミナー

「やさしい日本語のススメ～英語でなくても～」

多文化共生とは

皆さんは「多文化共生」という言葉を耳にすると、どんなイメージを持ちますか？平成18（2006）年総務省の「地域における多文化共生推進プラン」では、「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されました。地域における多文化共生を推進することは、「外国人住民の受入れ主体としての地域」「外国人住民の人権保障」「地域の活性化」「住民の異文化理解力の向上」等の意義を有し重要性を増している、としています。

私達、熊本市国際交流振興事業団では、多文化共生社会を実現する為、毎年2月を多文化共生月間と定め、様々な事業を実施しています。令和2年度は、熊本の外国人市民の状況をデータ等で紹介した「多文化共生パネル展」、熊本に住む外国人コミュニティの活動を動画で紹介しました。そして、地域の共通言語として「やさしい日本語」の活用を考える「多文化共生セミナー・やさしい日本語のススメ～英語でなくても～」を2月27日（土）にオンライン（ZOOM）と国際交流会館ホールにて開催し、59名の参加をいただきました。

やさしい日本語とは

ところで皆さんは「やさしい日本語」という概念をご存じですか？普段、私達が使っている日本語は外国人には分かりにくいのでしょうか？「やさしい日本語」とは、簡易な語彙・表現を使う、シンプルな文構造にする、漢字に振り仮名

を振る等により、外国人に対してだけでなく、小さな子どもや高齢者、障害を持った人など、いろいろな人に配慮した易しくて、優しい日本語のことです。

この「やさしい日本語」がなぜ今後地域社会で重要となっていくのか、なぜ外国人にとっても「やさしい日本語」が必要なのか、今回のセミナーを通してひも解いていきます。

まず、令和元（2019）年9月にオープンした熊本市外国人総合相談プラザの田辺コーディネーターより相談窓口に寄せられた様々な相談の中から日本語に起因する案件について説明がありました。相談として最も多かったのが、「行政関係などからの情報（文章）を理解するのが難しい」ということでした。例えば「新型コロナ支援関係などの申請書の記入の仕方が分からない」、「幼稚園・保育園への入園手続き、年金・国民健康保険等の内容が分からない」など、相談プラザに支援を求める事例が多く、外国人市民が日本語を学ぶ必要もあるが、私達日本人市民も「やさしい日本語」を活用することで、現在の状況を改善できるのではないかと、ということでした。

やさしい日本語の必要性

後半は、日本語教育の専門家であり、日本各地で「やさしい日本語」の普及に取り組まれている、聖心女子大学の岩田一成教授に「やさしい日本語のススメ～英語でなくても～」と題し講演をいただきました。

まず、自己紹介でご自身のことを難解公用文や不思議な公共サインのコレクター兼批評家と紹介され、具体的に街中に溢れている難解な日本語を紹介されました。

《特集》多文化共生セミナー

「やさしい日本語のススメ～英語でなくても～」

P1～2

《事業報告》日本文化体験DAY他

P3

目次

Contents

《世界を知る》

JICA海外協力隊2021年春募集のお知らせ

P4

きふプロ／令和3年度賛助会員募集

○県営住宅入居者募集（左上）

入居者が60歳以上の方又は昭和31年4月1日以前に生まれた方であり、かつ、同居し又は同居しようとする親族の

入居者が60歳以上の方又は昭和31年4月1日以前に生まれた方であり、かつ、同居し又は同居しようとする親族のいずれもが60歳以上の方若しくは昭和31年4月1日以前に生まれた方又は18歳未満の方である世帯。

『読み手に伝わる公用文 やさしい日本語の視点から』（大修館）より

国際大通り

Kokusai Boulevard



いずれもが60歳以上の方若しくは昭和31年4月1日以前に生まれた方又は18才未満の方である世帯。

※日本語の表現が回りくどく分かりにくい。

○国際大通り（Kokusai Boulevard）（左下）

※「国際」はローマ字表記「大通り」のみを英訳してある。

○ハトにエサをあげないで！

※説明文が長々と書いてある。

上記の例など外国人だけでなく、日本人でさえも分かりにくいと感じる日本語が普段の生活中に多く存在していることを指摘され、その解決策の1つとして「やさしい日本語」の活用を提起されました。

次に、クイズや動画を見ながら、なぜ「やさしい日本語」が日本でのコミュニケーション言語となり得るかを分かりやすくお話をいただきました。世界人口約72億人のうち、約60億人は英語が母語話者ではないといわれ、英語が使えるのは約12億人で2割弱と言われています。また、在住外国人に行った調査によると「英語ができる」は約44%に比べ、「日本語ができる」が約62.6%と英語より日本語でのコミュニケーション可能な外国人が多いとのデータがあります。

特に在住外国人が多い東京都での在住外国人への調査では、・日本人と同程度に会話ができる（29.1%）・仕事や学業に差し支えない程度に会話できる（23.4%）・日常生活に困らない程度に会話できる（29.7%）と全体の80%以上は日常生活で困らない程度以上の日本語レベルを持っており、さらに広島市が行った調査によると、英語がわかる外国人は22.5%に対して、日本語での日常生活に支障が無いと答えた外国人は66.8%との調査結果があります。

これらのことから、世界全体で考えると高度な英語力を持ち合わせている人は私達が想像するよりはるかに少数であり、日本国内でも英語を使える外国人よりも、日本語を理解できる外国人の割合は多いことが分かりました。私達は外国人をみると「英語」を話さないといけなないと思ひ、「英語」が分からないから、とコミュニケーションを避けがちですが、「やさしい日本語」を積極的に活用し、コミュニケーションを行うことが大切だと感じました。

その後、全世界で取組が行われているSDGsの目標を示したイラストには誰にでもわかりやすい「やさしい日本語」が活かされている事例や、医療現場での外国人患者と日本人医師のコミュニケーションツールとして「やさしい日本語」を活用している事例、「やさしい日本語」を活用した行政の先進的な取組、「生活・仕事ガイドブック」※1や「在留支援のための「やさしい日本語」ガイドライン」※2など国の取組事例の紹介がありました。

また「学校のお知らせ」を実際にやさしい日本語に言い換えるワークショップを行いました。やさしい日本語へ言い換えるコツは「授業参観」や「懇談会」など、今後もよく耳にするであろう単語は言い換えずに意味を説明すること、外国人が学ぶ初期の日本語教育では「です/ます」を教えるので、やさしい日本語に言い換える際には尊敬語・謙譲語は使わず、丁寧語にするなどです。

外国人市民の方の体験談

その後、このセミナーに参加されていた、ネパール出身である熊本大学薬学部特任助教のデブコタ・ハリさんからご自身の体験を基にやさしい日本語の重要性をお話いただきました。ハリ先生は熊本に住まれて13年で日本語も達者ですが、5年前の熊本地震の際はニュースでも生活の中でも普段耳にしない日本語（余震や前震、避難所や給水など）が多くて英語やネパール語に翻訳するのが大変だったこと、子どもさんが通う小学校で使われる言葉も独特で、PTAや授業参観などの教育システムの違いに困惑したことがあったそうです。また熊本市ドイツ国際交流員アンナ・ザイツさんは、日本人は分からない日本語を尋ねた時に、ゆっくり同じ言葉を繰り返す人が多いが、わかりやすい言葉に言い換えて説明してほしいと話されていました。印象的だったのは、アンナさん、ハリ先生が言われていた日本に住む外国人の多くは自分で選択して日本に来ているからこそ、「日本人が英語（外国語）を話せないではなく、自分たち（外国人）が日本語を理解できるよう努力する事も必要だ」との意見でした。

今回の多文化共生セミナーでは、私たち日本人が外国人市民の日本語をしっかりと聞くという姿勢が重要であり、相手の日本語レベルに合わせ、分かりやすく、やさしい日本語を用いることで外国人市民との円滑なコミュニケーションに繋がる可能性があることを学びました。外国人市民の皆さんが日本語を学ぶことも重要ですが、私達も学校や行政手続き、普段の生活の中で「やさしい日本語」の考え方を常にもち、活用していくことが今後の多文化共生社会推進の一助となると強く感じました。

お忙しい中、充実した内容の中にもユーモアがあり実り多い多文化共生セミナーにいただきました岩田先生、土曜日の午後4時からにも関わらず参加いただきました、皆様に改めて感謝いたします。

聖心女子大学 日本語日本文学科 岩田 一成 教授



金沢大学文学部地理課程を卒業後、青年海外協力隊で日本語教師になる。帰国後、大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了。博士（言語文化学）。広島市立大学国際学部などを経て現職。専門分野は日本語文法（談話レベル）。



生活・仕事ガイドブックHP

※1



在留支援のための「やさしい日本語」ガイドラインHP

※2

日本文化体験DAY

2月21日（日）に外国人市民を対象にした日本文化体験DAY（着物着付け体験）を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、講師も含め参加者全員に「健康チェックシート」の記入、マスクの着用、検温、手指の消毒を徹底し、着付けの際も、密を避けるために時間毎に参加人数を制限した着付け体験となりました。着付けの先生方は、フェイスガードも着用し、短時間で手際よく着物を着せていただきました。

着付け後、参加した皆さんは炉釜や飾り棚、掛け軸等をしつらえた茶道室にてお茶の様子を真似てポーズをとったり、城彩苑やサクラマチまで出かけたりして写真を撮っていました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、限られた人数での実施となりましたが、参加者の皆さんの表情は明るく、初めて着物を着られて嬉しかったとの感想も聞かれました。次回の着付け体験には、もっと多くの方が参加して、日本文化に触れていただきたいと思います。（熊本県国際協会助成事業）



韓国フェスティバル

毎年12月に開催していた「イヤーエンドパーティー」が新型コロナウイルス感染症の為に中止となり、替わりとなる国際交流のイベントを学生ボランティアと企画会議を行い、若い人に人気の「韓国」を紹介する「オソワ！ハングクフェスティバル～ようこそ！韓国フェスティバル」を3月21日（日）に開催しました。

韓国の民族衣装であるチマチョゴリの着付け体験をはじめ、韓国料理やグッズ販売ブースで韓国を感じてもらいつつ、韓国の書籍に関するお話や韓国への留学の説明、韓国人留学生との交流会等韓国への理解も深めてもらいました。多くの熊本の「韓国好き」の皆さんが来館され、賑わいました。

日本と韓国は距離的には近い国ですが、新型コロナの影響で今はなかなか行き来ができません。しかし、この状況が落ち着いた後は、お互いに多くの人の往来により理解と交流が深まることを期待します。



グローバルワークショップ

例年8月に実施している大学生を対象にした「グローバルワークキャンプ」でしたが、令和2年度は合宿型での開催ができず、替わりとして月毎にテーマを決めた講演とワークショップで国際的な問題について学び・考える「グローバルワークショップ」を開催しました。参加者はSDGsやフェアトレード、多文化共生といったテーマでそれぞれに講師からの話を聞き、それに関連したワークを通して問題の解決を考えました。1月、2月は、さらにオンラインでの開催となりワークショップを行うにも対面式とは違う難しさがありました。全6回のプログラムの後には、この事業のテーマである「グローバル人材に必要な能力とは？」について、参加者それぞれが自分なりの答えを見つけてくれました。この事業に参加した皆さんが、今後、グローバル人材として活躍されることを期待しています。

「南区くらしのにほんごくらぶ」開設

令和2年度文化庁地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業を活用して熊本市5区の中で唯一、日本語教室がなかった南区に新しく開設しました。

教室の立ち上げにあたり、南区在住もしくは南区で働いている方を対象に日本語交流サポーター（ボランティア）を募集したところ、20名を超える応募があり、1月26日と30日にオリエンテーションを、2月20日と27日に養成講座を実施しました。養成講座の内容は、「熊本市の外国人の状況を学び、多文化共生社会の実現のために必要なことを考える講座」、「やさしい日本語の概念や活用方法を学ぶワークショップ」、「日本語交流サポーター（ボランティア）の心構え」です。

また、開催日程や場所を検討するために南区在住の外国人の方向けにアンケートを実施しました。開催時間はアンケートに多かった日曜日の午後で開催（毎月第1・3日曜日・午後1時30分～3時）、開催場所は南区に住む外国人住民に分かりやすい南区役所の隣の富合公民館としました。

初回は会場の都合で3月6日（土）となりましたが、和気あいあいとした雰囲気の中での開催となりました。

今後も熊本市国際交流振興事業団では、「外国人住民と日本人住民が日本語でコミュニケーションを図り、共に支え合う地域づくりを促進すること」を目標に、熊本市国際交流会館での「くらしのにほんごくらぶ」や熊本市東区、西区、南区、北区で「地域日本語教室」を開催していきます。熊本地震の際に、日本語教室で築かれた関係がセーフティネットの役割を果たした経験などから、「顔が見える関係づくり」や、「同じ地域に住む住民としての交流」という点に重点を置いた教室を目指していきます。



世界を知る ～It know the world～

「JICA海外協力隊2021年春募集のお知らせ」

新型コロナウイルス感染拡大により中止となっていたJICA海外協力隊募集が、ついに再開されます。新型コロナウィルス感染拡大により、全世界から約2000人の隊員が一時帰国を余儀なくされました。昨年11月頃から徐々に再派遣の兆しが見え始め、現在10カ国ほどではありますが隊員が任国へ戻りつつあります。今回の募集で2022年4月以降の派遣再開を目指しています。募集期間は下記の通りです。

2021年5月20日（木）～6月30日（水）日本時間正午〆切

（JICA海外協力隊のWebページから応募）

JICAデスク熊本では応募相談を随時受け付けています。少しでも気になる方、興味はあるけどどうしたらいいかわからないという方、一度JICAデスクで話を聞いてみませんか？

お越しになる際には念のため電話またはメールにてご連絡ください。

皆様のお越しを心よりお待ちしております！

詳しくは [JICA海外協力隊](#)



JICAデスク熊本について

JICA海外協力隊（青年海外協力隊、シニア海外協力隊）や国際協力に興味がある方はJICAデスク熊本までお問い合わせ下さい

熊本市国際交流会館2階

午前9時～午後6時（日曜、月曜休み）

☎ 096-359-2130

✉ jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

きふブロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>

こんにちは！

熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科の鶴殿ゆき奈です。

今日は午後からEPO九州の取り組みとSDGsについて学びました。



SDGsについては大学の授業で出てきたことがあり、なんとなく知っていましたが、自分とは遠いもののように感じていました。持続可能な世界を作るためにグローバルに活躍できる人はどんな人なのか、最近流行りの『鬼滅の刃』を例に新しいヒーロー像を考えたり、カードゲームを通してトレードオフの解決策を考えたりしたことで、SDGsの取り組みを身近なものとして捉えることができました。

すべてをひとりで解決できるヒーローにはなれませんが、たくさんの人とつながり共感して、楽しく協働できる人材を目指して頑張りたいです。

※熊本県立大学の鶴殿さん（筆者）、徳久さんは2月25日～3月12日でインターンの活動を行いました。

☆2021（令和3）年度賛助会員募集中！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

①個人会員 一口 2,000円/年（一口以上） ②団体会員 一口 10,000円/年（一口以上）

継続・新規加入ありがとうございました。（令和2年度は次の団体の皆様にご支援をいただきました。ありがとうございました。）

【団体】50首順（継承略）

阿蘇医療センター、一般社団法人熊本市医師会、医療法人寿量会、医療法人城南ヘルスケアグループ、株式会社セイラグロース、熊本県行政書士会、熊本赤十字病院、熊本日独協会、熊本日米協会、熊本保健科学大学、熊本労災病院、国保水俣市立総合医療センター、国立病院機構熊本医療センター、社会福祉法人済生会熊本病院、崇城大学



一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住 所：熊本市中央区花畑町4番18号

熊本市国際交流会館

休館日：第2・第4月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）

年末年始（12月29日～1月3日）

TEL：096-359-2121

FAX：096-359-5783

E-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL：<https://www.kumamoto-if.or.jp>

